

交換留学プログラム よくある質問(FAQ)



2018年11月 国際部

ここでは一般的なFAQを記載しています。最初に各プログラムの募集説明資料をよくお読みください。

1. 参加資格に関する質問

Q: 英語力はどの程度必要ですか？

国際部で募集する交換留学(授業履修型)の場合はTOEIC400を出願資格として設けていますがこれは最低限度の目安です。最終的には、各協定校が指定する英語力基準がある場合はそれを満たしているかがポイントになりますので、各自確認してください。

交換留学は英語で専門を学ぶという趣旨のプログラムですので、相応の英語力が必要です。TOEFL iBTまたはIELTSを受験し、自分の語学力を客観的に把握するようにしましょう。協定校によっては十分な語学力を持っていることの証明としてTOEFLやIELTSのスコア提出を求められる場合もあります。英検やTOEICは語学力の証明として認められない場合もありますので注意してください(特に欧米圏への留学を希望している場合)。

2. 学籍や単位認定に関する質問

Q: 必ず休学が必要ですか？できれば休学をせず、4年間で大学を卒業(2年間で修士課程を修了)したいのですが。

休学の要否は人によって異なります。所属学科(専攻)のカリキュラム上可能かどうか(留学期間中の必修科目の取り扱い、留学先で取得した単位の取り扱い、進級要件、卒業要件など)、学生課(大学院・MOT事務課)職員や学科教員に確認してください。カリキュラム上可能であっても、現在の単位の取得状況や、就職活動や大学院進学への影響(スケジュールや出願資格など)なども考慮する必要があります。リスク・不確実性などいろいろな要素を踏まえた上でご自身でご判断してください。なお、休学する場合の手続きは、学生課もしくは大学院で別途行って下さい。

Q: 留学先で取得した単位は本学の単位になりますか？

学外単位認定制度により、帰国後に学生課(大学院・MOT事務課)にて認定申請手続きをすることができますが、単位が認定されるか否か、あるいは認定された場合の単位の取り扱いかどうなるか(どの科目区分で認定されるか、卒業要件に算入されるか等)は、審査結果次第です。認定されない場合もありますのでご注意ください。学外単位認定制度の受付期間や必要書類は学生課(大学院・MOT事務課)に確認してください。

3. 渡航準備に関する質問(アカデミック編)

Q: 授業履修型の場合、履修する科目はどうやって決めるのですか？

多くの協定校では交換留学生向けのページに開講科目リストやシラバスが掲載されていますので、各自の留学計画に合わせて教員とも相談して決めて下さい。休学をせずに卒業することを計画している場合は、必ず教員と相談して下さい。

Q: 授業履修型の場合、留学先で取得した単位は本学の単位になりますか？

学外単位認定制度により、帰国後に学生課(大学院・MOT事務課)にて認定申請手続きをすることができますが、単位が認定されるか否か、あるいは認定された場合の単位の取り扱いかどうなるか(どの科目区分で認定されるか、卒業要件に算入されるか等)は、審査結果次第です。認定されない場合もありますのでご注意ください。学外単位認定制度の受付期間や必要書類は学生課(大学院・MOT事務課)に確認してください。

Q: 研究室配属型の場合、受入教員はどう探すのですか？

本学教員に紹介してもらう場合や、自分で探す場合があります。

自分で探す場合は、自分が海外で行いたい研究テーマを明確にし、協定校の交換留学生向けのWeb等で希望教員を探してください。教員が見つかったら、メール等でコンタクトをとり履歴書(CV)や研究計画(Research Plan)、成績表(Transcript)、英語力証明(TOEFLやIELTS)等を送付し、受け入れ可能かどうか相談してみてください。

Q: 研究室配属型の場合、授業履修をすることはできないのですか？

協定校の指導教員と相談してください。ケースにより授業の履修が可能なこともあるようです。

4. 渡航準備に関する質問(諸手続き編)

Q: 協定校への出願手続きやビザ申請などはどうすればよいですか？

協定校や大使館のホームページを参照し、各自で進めてください。必要書類や申請方法は予告なく変更されることもあるため、先輩の話などだけではなく、必ず自分自身で直接で最新情報を確認しましょう。なお、書類の準備の際に大学として発行が必要な書類がある場合は早めに相談してください。

昨今の世界情勢を受けて、特にビザ申請は、年々、申請から発給までの審査が厳しくなったり時間がかかる傾向がありますので、余裕をもって進めましょう。

Q: 予防接種は必要ですか？

留学先によっては協定校への出願やビザ申請の際に所定の予防接種を求められる場合があります。求められない場合には、ご自身の病歴を考慮して各自の判断で接種してください。なお、芝浦工業大学では「日比谷クリニック」を紹介しています。